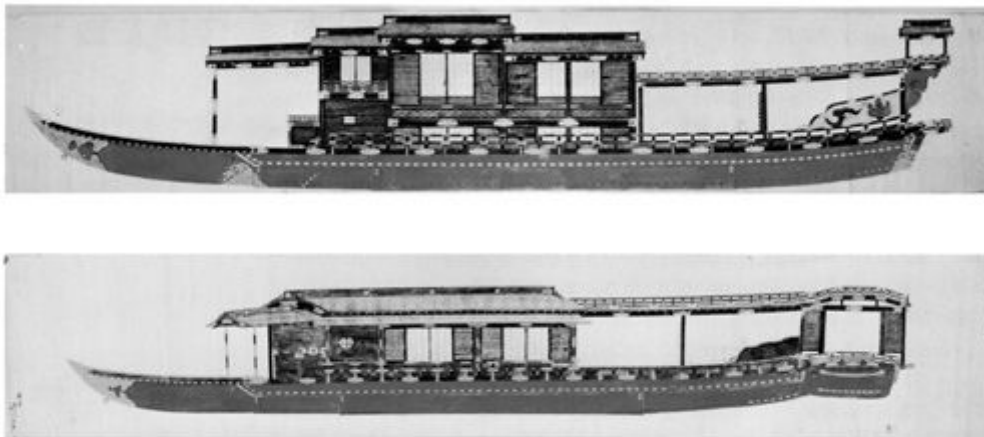


三軒家地域は、豊臣時代から開発者の中村（木津）勘助の名前をとって、^{かんすけじま}勘助島と呼ばれていました。江戸時代には「御船蔵」と「^{きづがわぐちとおみぼんしょ}木津川口遠見番所」が設けられ、御船蔵は岩崎橋公園附近（現在地）、番所は大正橋公園附近（現在地の東方）にありました。

「御船蔵」は幕府の官船等を納める施設で、文書や地図にも記録されています。当地の御船蔵が蔵した官船名は明らかではありませんが、幕府の「^{かわごさぶね}川御座船」には紀伊国丸や土佐丸等の名前が見られ、漆塗りの屋形を持ち、金銅の金具をつけて豪華な装飾を施され、^{ろさお}櫓と^{さお}棹で航行する川船でした。明治23年発行の大阪実測図にも跡地に「^{あざふなやしき}字船屋舗」の文字が見えます。大正9年に開削された岩崎運河にも敷地の一部が取り込まれました。

なお、公園北側の環状線の擁壁面には、「昭和3年の道路開通記念碑」が埋め込まれています。



川御座船 (㊶老番御座船 ㊷武番御座船) 長谷川真通氏蔵

『大正区ホームページ』から転載

